

松川事件研究所

所長 新谷 崇一

1. 研究目的

1949年8月発生の松川事件の背景と実相、大衆的裁判闘争、松川救援運動および出版・報道の論調について、これまでの研究成果を踏まえ、総合的に研究する。

2. 研究メンバー

新谷 崇一
伊藤 宏之
澤 正宏
新村 聡
金井 光生
熊澤 透
小山 良太
伊部 正之
安田 純治
倉持 恵
渡邊 純
南部 弘樹
広田 次男
大学 一
加藤 起
渡邊香津夫

3. 研究活動内容

平成24年度は、昨年度にも増して本研究は停滞を余儀なくされた。言うまでもなく、2011年3月11日以降の東日本大震災ならびに東京電力福島第一原発事故の調査研究に大半の時間がとられたからである。

とはいえ、原発事故損害賠償訴訟など裁判闘争において、「松川の大衆的裁判闘争に学べ」という声で改めて松川事件への関心が回復しつつある。この新たな潮流に励まされる形での研究活動の復活が来年度の課題である。

平成25年度は「無罪確定判決50年」であり、記念の全国集会も予定されている。これらからも研究活動が学ぶことは大きい。

【24年度の業績】

・伊部正之、松川事件と松川資料室― 日本の労働運動を変えた国鉄3大事件、『国労文化』、500号、2012年6月